



ゆめ通信

発行 日本養豚事業協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10
八重洲早川第2ビル6階

TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

飼料品質研究会開催

3月8日に“飼料品質研究会”を開催しました。当初は大野ファームの社長でもある後藤理事を座長に、フィード・ワンの岩澤氏を講師に迎え8人で開始しました。慶弔などの不測の事態がない限り3ヶ月に1度開催することとしてきました。途中、メンバーの変更があったりしましたが中心メンバーの5名は変更なしに続いてきています。現在のメンバーは、講師にフィード・ワン株式会社の榎本聡氏・日本農産工業株式会社の高橋真之氏を迎え、豚事協メンバーも8人となっています。

ゆめシリーズのマッシュ飼料は平成13年の豚事協設立開始直後より販売を開始し、丸粒とうもろこしを配合した単純配合飼料として評価を得てきました。販売量も、第2期には月間販売量1万トンを達成するなど組合の発展に寄与してきました。しかし、近年はクランブル（ペレット）飼料が市場を席卷してきており、豚事協の供給飼料に占めるクランブル飼料の割合も50%を超えてきています。これは飼料原料価格の高騰により消化率の高い加熱飼料のほうがFCを改善できることから増加しているものと思います。

同時に、豚の品種についてもPICケンボロー（以下、PIC）やハイポーなどのハイブリッド豚やTopigs Norsvin（以下、Topigs）のような高能力の種豚が市場の占有率を高めてきたため、アミノ酸やリンなどの栄養要求量も見直さなければならなくなってきています。このことから、2017年6月に第1回の研究会を開催しました。この時はたまたま、硫酸コリスチンの添加が廃止されるとの情報が農林水産省よりもたらされ、豚事協としても検討を急がなければならなくなってきており研究会での検討結果を理事会に提出することとしました。その後は、各品種ご

とや日本飼養標準・NRCなどの栄養要求量を勉強して配合率に反映させる本来の研究会の勉強に入っていました。

今回は榎本氏に配合設計のときに参考にするPICやTopigsのマニュアルと同時にNRCや日本飼養標準の要求量についてそれぞれの違いや考え方を勉強しました。高橋氏からは同様にマニュアルの栄養設計の違いを話して頂くと同時に飼料に使用する原料にはどんなものがあるか、その特徴はどこにあるかなどを説明して頂きました。皆さん、まだまだ勉強することはたくさんあり、知識がまだ生煮えの段階ですが、今回から具体的に“飼料の配合設計はどう考えるか”というところに入り込んでいきます。まずは関東地区で販売される人工乳後期用・子豚期・肥育期のクランブル飼料について榎本氏や高橋氏の助言を得ながら、配合率を組んでみました。4月からは、その配合率で豚事協の飼料として販売されています。

養豚家が自分たちの増体成績を基に配合設計をするという豚事協の基本に根差した配合を目指して始めた飼料品質研究会ですが、2年余りを経過して、ようやく目的とした配合設計の実践にたどりつつあります。ここから先は、代表的な農場の成績を基にしながら、季節ごとに次の四半期の子豚の増体や背脂肪厚を予測して、適正な配合率を検討する“季節配合の実施”を目指して活動していきます。将来的には榎本氏や高橋氏の力を借りなくても配合設計できる人材が輩出して頂けるようになってほしいと思っています。

委託製造の配合飼料は豚事協の基幹となる商品です。メンバーの皆さんにしっかり勉強していただいて、組合員が安心して購入できる飼料を作っていたきたいと思います。（矢嶋）

Topics

シリーズ地域防疫 今こそ、我こそ！

第3回 旭市PRRS

コントロールプロジェクト

アイデアス・スワインクリニック
早川 結子

はじめに

千葉県旭市における地域防疫についてのシリーズ第3弾です。前回まで、地域防疫の土台が出来上がるとともに旭市内の複数の組合が一つとなった旭市養豚推進協議会が成立し、いよいよ旭市としてPRRSの地域ぐるみの対策への取り組みを始めることになったところまでお話ししました。と書くと、とてもスムーズに全てが運んだように聞こえてしまいます。が、実際は、「どうやって生産者の気持ちと同じ方向に向かわせるか」「活動に必要な資金をどう調達するのか」という、どの地域でも問題になるであろう2つの課題と向き合わねばなりません。旭市の場合、いくつかの偶然が重なり、またそれらを意識的に活用することでこの2点をなんとかクリアし、スタートに漕ぎ着けることができました。

地域ぐるみのPRRS対策……志を1つにするには？

地域ぐるみのPRRSコントロールを目指すときに、第一の障壁になるのは、どうしたら地域の生産者の意志を一つにまとめることができるのか、ということです。そのためには密集地帯におけるPRRSコントロールの重要性、裏側からいうと密集地帯におけるPRRSの問題性が地域で共有されることが非常に重要です。旭市養豚推進協議会は会員数66名からなりますが、それぞれ規模も経営形態も、疾病の状況も異なっています。PRRSの捉え方も、「陽性だとは思いますが、うちではあまり動いていないようで、問題に感じていない」という人もあれば、「PRRSで離乳舎の状態が良くない状況が続いている」という人、定期的に繁殖障害が起

こるという人、その間隔も半年に1回の人から2、3年に1回という人から実に様々であり、当然PRRS対策に向けるモチベーションはバラバラでした。せっかく立ち上げた地域防疫部会でさえ、ゆくゆくは地域ぐるみでPRRS対策を、という考えがあったものの、しばらくPRRSを看板に掲げられなかったのも、このような地域全体の雰囲気がありました。なぜ、PRRSをもっと本気で、しかも地域ぐるみで取り組む必要があるのか。明瞭な根拠を持つ必要がありました。

AI製剤を介したPRRSの地域的流行

そんな折のことでした。旭市の養豚組合が統一されたのは平成29年4月ですが、その年の1月から5月にかけて市内でPRRSの地域的流行が起きました。市内の十数軒の農場で運営されていたAIセンターにPRRSが侵入し、精液を介して多くのユーザー農場にPRRSが伝播し、大きな被害が出たのです。この株は複数のユーザーの農場で激甚な繁殖障害を呈し、続いて離乳舎で通常の4～7倍の離乳舎事故率を叩き出したのです。流産が収まったのちも原因不明の不受胎に多くの被害農場が長らく苦しみました。私のクライアントも2軒ほどユーザーであり、この株の侵入により大きな被害に遭いました。そのうちの1軒の方が、こう言われました。「PRRSとはうまく付き合えばいいと思っていた。が、今回4カ月分換算の子豚が死亡し、また繁殖障害が長期化したことで、PRRSは経営の断絶をもたらしかねないあつてはならない病気だと認識を新たにした。また、自分だけが防疫していても、他の農場でリスクを冒していたら

自農場もリスクに晒されることになる。地域一丸となって取り組まなければならない。そしてもう二度とこのようなことがあってはならない」この言葉を聞いたとき、私はこの件を地域ぐるみのPRRS対策につなげるきっかけとして生かさなければと思いました。すぐに防疫部会リーダーと話し合い、5軒の被害農場の方々から状況を聞き取り、地域の教訓として生かすために聞き取った被害状況を勉強会の場で公表する許可を得ました。

地域防疫とは何なのか

この調査により見えてきた問題点は、種豚場に求められるバイオセキュリティの問題に留まっていませんでした。売る側にも買う側にも、基本的なバイオセキュリティの理解が不足していましたし、PRRSのアウトブレイクに対する対処も農場によってさまざま、科学的な根拠や最新の知見に基づいた対策が取られていなかった農場も多くありました。特にこのケースは精液を主とした生体の売買に伴っており、疾病伝播リスクは非常に大きく、実際に大きな被害に繋がっただけではなく、この地域が密集地帯であるために、ユーザーに留まらずその周辺の農場へも飛び火している可能性が十分に考えられたのです。密集地帯では、一軒がリスクを冒すことが、その何倍もの農場のリスクとなり、被害はリスクを冒した農場に留まらず他農場の被害を引き起こしてしまう。密集地帯でこそ一軒一軒が正しい防疫の知識や技術を身に付け、それによって地域ぐるみで防疫レベルを上げなければ個々に対する疾病のリスクを

下げることができない。まさに地域防疫の意義が詰まった出来事だったのです。

キックオフのキックオフ

というわけで、旭市養豚推進協議会が成立してから2か月後の平成29年6月に、このPRRS事例を取り上げた勉強会を、地域防疫部会主催、担当は私早川で開かせて頂きました。実は、同年4月の時点で、後述する地域豚疾病緊急対策推進事業が地域ぐるみのPRRS対策をテーマに旭市で実施されることが決定していました。協議会はその決定に何ら関与していませんでした。突然降って湧いたチャンスとしかいいようがありませんでした。そこで、私を含めた地域防疫部会が考えたのは、協議会会員への当事業実施のアナウンスに先だて、今回のPRRSの地域的流行を地域全体の問題として捉え、事業実施へのモチベーションを共有し励起するきっかけにすることでした。それにはまず、当勉強会の冒頭で、これまでの当地域の地域防疫の取り組み経緯を時間を遡って順にお話し、それが旧干潟地区限定の活動ではなく、旭全体の流れとして受け止め直すためのお話をしました。更に続けて直近で起きたこのPRRS地域的流行の概要(図1)、そしてバイオセキュリティ上の最も基本的な生体の売買に於けるルール(売る側も買う側もPRRS陰性のものを取引すること)の確認(図2)、さらにこの事例から学べる地域防疫の本質についてお話し(図3)、養豚産地である旭市の最も大きな弱点である疾病とその代表格のPRRSに対して、地域ぐるみで取り組んでいくことを地域防疫事業実施のアナウ



図1-1 平成29年に旭市内で起きたPRRS地域的流行
旭市養豚推進協議会地域防疫部会勉強会資料より

農場	母豚規模	被害	H29年1月	H29年2月	H29年3月	H29年4月	H29年5月
A農場	1000以上	繁殖障害	流・死産200腹				
		肉豚事故		離乳舎事故率5倍			
B農場	300~500	繁殖障害	流産78腹				
		肉豚事故		離乳舎事故率7倍			
C農場		繁殖障害			流・死産60腹		
		肉豚事故				離乳舎事故率4倍	
D農場	50~100	繁殖障害			流・死産28腹		
		肉豚事故				離乳舎事故率4倍	
E農場		繁殖障害		流産4腹			
		肉豚事故		哺乳豚全滅			

図1-2 被害農場への聞き取りによって被害状況をまとめたもの
旭市養豚推進協議会地域防疫部会勉強会資料より

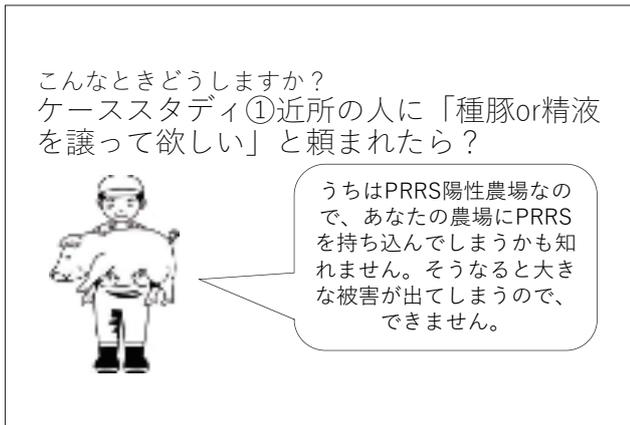


図2-1 売る側の守るべきルール
旭市養豚推進協議会地域防疫部会勉強会資料より

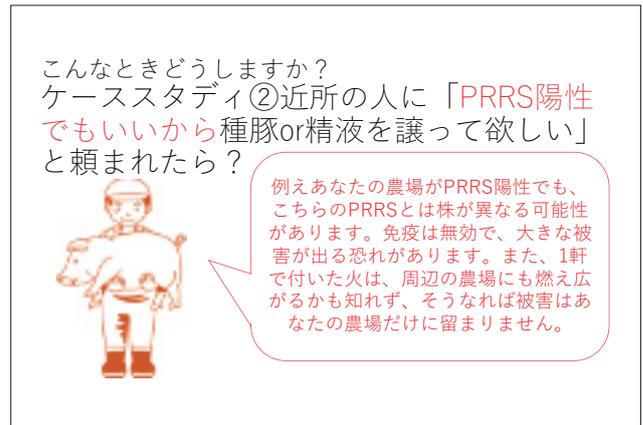


図2-2 売る側の守るべきルール
旭市養豚推進協議会地域防疫部会勉強会資料より

ンスとともに呼びかけました。この勉強会に会員全員が参加していたわけはありませんし、聞いていた方々が同じように感じたかは正直わかりません。が、後で振り返るとこの勉強会は、この後7月に開かれた旭市PRRSコントロールプロジェクトキックオフ会議の前哨戦となったのであり、地域のこれまでとこれからを共有するのに欠かせないプロセスとなりました。

地域ぐるみのPRRS対策……活動費用は？

さて、地域としてPRRSに取り組もうとしたときに、意思統一と並んでもう一つ大きな障壁になるのが「お金」です。疾病対策の科学的裏付けになる検査には、必ず費用が掛かるものですし、疾病対策には獣医師による診療が必要であり、そこには然るべき対価が生じます。費用を出すこと、または費用を出してくれということに足踏みをしてしまうケースは珍しくありません。この点旭市の協議会は非常な幸運を授

かったと思います。前述しましたが、平成29年度から3年間JRAの畜産振興事業の1つである地域豚疾病緊急対策推進事業の実施地域となり、事業予算が下りることになったのです。たまたまその事業計画の作成を委託機関である千葉県畜産協会の担当者、松木英明さんから相談されたのが私でしたので、なんとか当事業を活用して地域防疫の基盤強化のための意志統一や、PRRSを題材にして疾病対策やバイオセキュリティの強化を実現したいと、必死に計画を考えました。計画提出までにあまり時間がなかったため、まずは私と松木さんとで粗筋を描き、それを地域防疫部会と関連獣医師（家保、共済、民間）を集めた会議で討議し、計画を修正して行きました。重きを置いたのは、市内の生産者1人ひとり当事者として全員に地域防疫の土俵に乗ってもらうこと、PRRSの問題性とPRRSコントロールに取り組むこと



図2-3 買う側の守るべきルール
旭市養豚推進協議会地域防疫部会勉強会資料より



図3 地域防疫とは？
旭市養豚推進協議会地域防疫部会勉強会資料より

のメリット両方を、全員で共有できることです。その結果出来上がったのが、以下に記します3つの柱からなる事業計画でした。また、計画作成の過程で当プロジェクトに旭市PRRSコントロールプロジェクトAPCP (Asahi PRRS Control Project) という名前が付き、計画作成に携わる面々をマネジメントチームとして自然に組織する流れとなりました。

APCPの計画内容

1. PRRSおよびバイオセキュリティに関して、継続的な勉強・検討集会を実施する

1人ひとりの志を同じ方向に向けるには、やはり繰り返しコミュニケーションの場をもち、PRRSとバイオセキュリティの基本的知識について、共通の知識に触れて行く必要があります。外部から講師を招聘する企画はもちろんですが、この地域には豚に専門的に関わる獣医師が数多く存在しており、それは地域の財産として大いに活用すべしということで、地域内の獣医師による勉強会も積極的にやろうという声が上がりました。

2. 会員全戸のPRRS集団検診（PRRS清浄度ステージング、ウイルス株解析など）を実施する

やはり欠かせないのが、まずは一軒一軒の農場がPRRS清浄化途上のどこに位置しているのか、共通の物差しを当てて「測定」し、それぞれを総合して地域としての「現在地」を知ることでした（ステージング）。協議会会員の農場は全部で90農場余りであり、その全てで一般的なサンプル数で一斉採血と抗体検査およびPCR検査を行うと、さすがに大金がかかります。このためどのようなメニューで採血すればステージングに必要な最低限の情報が得られるか、この地域でのPRRSの陽転パターンなどを加味し、意見を出し合いながら決定しました。その結果、初産4頭、低産歴（2,3,4産）計5頭、高産歴（5産以上）計5頭、離乳前後の子豚4頭、45日齢4頭、60日齢4頭、90日齢4頭、合計30頭を採血対象とし、肥育専門農場では120日齢、150日齢で各4頭ずつ採血することになりました。この旭市バージョンのステージング採血に、畜産協会の松木さんが「PRRS集団検診だね」と、呼びやすくイメージとして理解し

やすい呼称を付けて下さいました。また、地域防疫部会の生産者メンバーから、「せっかく地域的規模で検査ができるなら、ぜひ株の解析もやって欲しい。自分の農場の株や隣の農場の株がわかるとなれば、みんな興味を持ってくれると思う」という非常に前向きな意見が出ました。解析には安くない費用がかかること、株解析やその解釈には専門家の知識が必要であることから、千葉県東部家畜保健所を通じて農研機構動物衛生研究部門の高木先生に解析をお願いすることになりました。

3. PRRS重点対策モデル農場を選出し、対策を実施する。その進捗状況を勉強会で報告し、共有していく。

具体的なPRRS対策の取り組み事例を作り、成功も失敗もみんなで共有していくこともやはり必要だということで、PRRSの対策を重点的に実施する農場を「モデル農場」とし、有志を募ったところ、7名の農場が手を挙げて下さいました。それぞれ担当獣医師が付き、7農場全てに共通した対策として年2回のPRRSステージング及びバイオセキュリティ査定の実施、候補豚の繰り上げ前検査以外は、基本的に担当獣医師と当該農場とで話し合い、農場の状況に合致した対策を自由に行うということになりました。また対策の進捗を地域の勉強会で報告し、共有していくことも決まりました。7農場の方々は、これまでもしっかりPRRS対策をしてきた！という農場ばかりではなく、どちらかというところまであまりやってこなかったのが、これからやってみよう、という農場が半数以上でした。おっかなびっくりの後ろに、何か変えたいという強い気持ちが見え、個人的に大変勇気づけられました。私も家保さんと組んで3軒のモデル農場を担当することになりました。

以上がAPCP事業計画の概要であり、旭市は平成28年7月、講師にサミットベテリナリーサービスの石関先生をお招きして、旭市PRRSコントロールプロジェクトのキックオフ会議が開催され、プロジェクト始動に至ったのでした。次回はその途中経過や、3年事業の最後の1年に当たる令和元年度についてお話しします。



第12回 夏に思う・・・戦争の教訓

伊東 正吾

1. 日本の戦争に関する歴史認識

日本は明治以降大きな戦争に4回（明治：日清・日露、大正：第一次世界大戦、昭和：第二次世界大戦）も深く関わり、特に最後の第二次世界大戦（太平洋戦争）では敗戦国となり、多方面で大きな痛手を受けました。敗戦からの復興には幾多の困難もありましたが、勤勉実直な国民性がものづくり分野などで奏功し、世界に例を見ないほどの復興・発展を遂げることができ、その結果、世界経済を牽引するまでに至ったことは周知の事実です。しかし、戦争及び敗戦による負の遺産は大きく、その影響を現在も引きずっていることも確かです。

本来ならば、戦争の影を払拭するための作業は国として政府が先頭に立ち着実に対応するべきであり、国民は十分な歴史認識をしながら、可能な範囲で協力をする立場にあると思いますが、戦後の玉虫色の

付度外交？も影響し、相手国との清算が完結していない状態であり、更に国民の戦争認識も徐々に希薄になってきているように感じられます。

国レベルの課題としては、北方領土や日本海に存する島の問題、沖縄での基地問題、戦争時の外国人に対する問題など、古くて新しい諸問題を未だに引きずっています。

国民の認識・意識に目を向けると、高度経済成長とバブル経済時代の地に足がつかない状態が影響しているのか、表面の華やかな部分に目を向ける傾向が強く、内面を見つめて着実に歩みを進める姿勢に欠けているように、私には感じられます。

人は自ずと楽な環境を志向するのが常であることは容易に理解できますが、苦しさや辛さを意識的に避けていては成長できないと思います。かつては、恵まれた環境を一時的にかなぐり捨ててでも厳しい境遇に挑戦する者も多く存在しましたが、残念ながら最近の世相では見かけることが少ない傾向にあります。

戦争認識と現在の世相との関連性を同一に論ずる



写真1 広島原爆ドーム
世界で初めて原子爆弾が投下された被爆地広島原爆ドーム。人類に対する最悪の凶器である原爆の凄まじさを直視できる負の遺産として、世界遺産に登録されて極めて著名である。

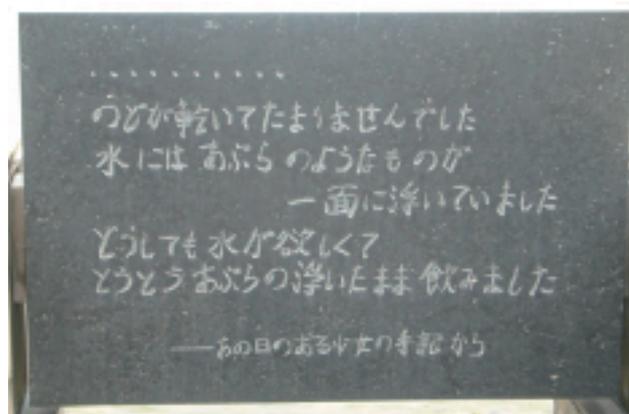


写真2 想像力のある人であれば、胸が締め付けられ涙が流れ落ちる手記



写真3 長崎平和公園内の平和祈念像
天を指す右手は原爆の脅威（長崎の過去）を、水平に伸ばした左手は平和（長崎の未来）を示し、軽く閉じられた臉は戦争犠牲者の冥福を祈っているとされる。

ことには無理があるとは思いますが、私は最近、日本人として戦争を含めた歴史認識を新たにし、内面を見つめ直したうえで将来を展望することは、今後の日本国民が心身ともに豊かで幸せな日常を送るために必要ではないかと感じています。

2. 太平洋戦争での原子爆弾による広島と長崎の悲惨さ

原子爆弾のすさまじい破壊力は凄まじく、直接的死者と関連死も含めると原爆関連死没者数は2018年までに合計約49.3万人（広島31.4万人、長崎17.9万人）に達しており、人類史上最悪とも言える悲惨な状況です。

かつて社会評論家の大宅壮一氏が「一億総白痴化」との言葉を発して注目されましたが、生まれた時から豊かな物質文明の中で日常を送っている今の日本

社会への重要な警鐘であると考えます。

「歴史は繰り返す」とも言われ、広島と長崎の不幸を契機に世界的核廃絶運動が盛んになっても、現実には不透明な事態も起きています。広島や長崎の悲惨な負の経験の礎にして、人類の恒久平和を構築するのが人類の英知であるはずですが、極めて不安に感じます。

3. 本土決戦の沖縄戦と戦後の苦渋

太平洋戦争で唯一の本土決戦となった沖縄地方の苦しみは、言葉にできません。また、沖縄戦での戦没者は原爆被害レベルであり、全戦没者数は200,666人とのことですが、そのうち日本軍人が94,136人で、なんと住民の戦没者は約94,000人（戦闘参加者:55,246人、一般住民38,754人）に至り、一般住民の戦没者は集団自決を迫られたりして犠牲になった方も数多いようです。極めて悲惨な状態であり、今の日本の繁栄の裏側の事実を胸を締め付けられます。今を生きる同じ国民として、決して忘れてはなりません。

しかし、更に悲しく罪深いことは、終戦後および1971年の本土返還後も、沖縄の方達に国として多くの負担を強いている現実が未だに続いていることです。

日本国としての国家防衛や国の安全保障は当然重大問題ですが、沖縄戦という極めて悲しい経験をした沖縄地方で現在も米軍基地問題等で大きな負荷を強いている現実があること、また、世界的にも貴重で美しい自然環境は第一義的に守るべき事のはずですが、それを国家権力で強制破壊しようとしている現実、国民として絶対に看過できません。

沖縄戦での大きな傷跡を持つ沖縄県民への真の寄

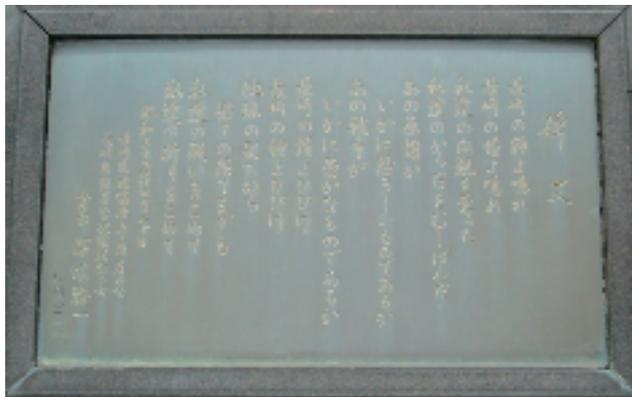


写真4 長崎平和公園内に設置されている平和への祈りを込めた碑文

碑文
長崎の鐘よ鳴れ
長崎の鐘よ鳴れ
私達の肉親を奪った
私達のからだをむしばんだあの原爆が
いかに恐ろしいものであるか
あの戦争が、いかに愚かなものであるか
長崎の鐘よひびけ
長崎の鐘よひびけ
地球の果てから 果ての果てまでも
私達の願いをこめて
私達の祈りをこめて

長崎の碑文の本文のみを転記



写真5 長崎爆心地公園に移設された浦上天主堂の遺壁
長崎の爆心地に整備された平和公園の一角に保存される原爆被害を示すモニュメントの一つ。原爆の炸裂により破壊された、爆心から約500mの浦上天主堂聖堂南側の一部で、壁上の石像はザベリオと使徒が遺る。

り添い方は、政府・国会議員は勿論ですが、沖縄以外の全国民も日頃から意識すべき責任事項だと思います。外交や国策の言葉に隠れた無理強いは決して許してはならないことであり、国民一人一人が常に厳しく監視すべき立場にあると思います。

わが国にとって8月15日の終戦記念日はもちろん重要な日ですが、その前に、終戦後も多くの苦しみと隣り合って生活している沖縄の現実を我が事として認識することは日本人として極めて重要であり、せめて沖縄慰霊の日（6月23日）には国民一人一人が認識を新たに、戦争の犠牲者に祈りをささげるとともに、「今何ができるか、将来はどうあるべきか」を真剣に考えたいものです。

4. 反戦への強い思い

私は今までに広島7回、長崎1回、沖縄には3回の戦跡訪問をしていますが、何度訪れても自分の体の芯から身震いと激しい憤りの念が湧き上がり、自分が戦火を直接経験していなくともその極悪さを強く認識させられます。二度と戦火を燃えさせてはいけないし、絶対に原水爆や化学兵器などの大量殺戮兵器の使用を阻止しなければいけません。

最近、人の心の痛みを理解できない政治家があまりに多く目につきます。それは若い政治家に限らず、老齢な政治家でも同じです。一般国民の暮らしや思

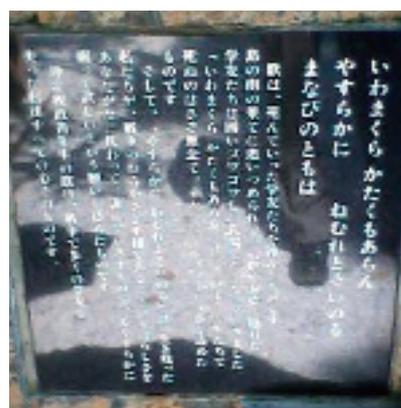


写真6 沖縄・万座毛
著名な景勝地として知られるが、沖縄戦終盤には米軍に追い詰められた沖縄県民の多くが、約20mの絶壁から身を投げて集団自決した悲しい現実が残る。

いを理解できない政治家が増えた要因の一つは、各々の慢心の生活から生まれていると考えています。

今一度、見かけの華やかさや楽しさに目を奪われず、地に足をつけた生き方を見つめ直し、お互いを慈しみ合う社会を再構築することこそ、反戦の原点になると考えます。

広島と長崎は勿論、沖縄の碑文を拝読して自然と涙が流れ出ますし、涙の流れ出る感性が自分の中にあることを嬉しく思っています。どのように時代が変わろうと、今生きる時代の背景を自分達一人一人がしっかりと認識することこそ、希望の持てる平和な未来を構築するベースになると考えます。



いわまくら碑
いわまくら かたくもあらむ やすらかに
ねむれどぞいのる まなびのともは
(注) ひめゆりの塔・平和祈念資料館の壕壙石碑に記された、当時の引率教員（仲宗根政善）が洞窟や堅い岩陰で亡くなった学徒を偲んだ哀悼の歌であり、反戦の誓いが込められている。

写真7 沖縄・ひめゆりの塔の「いわまくら碑」

賛助会員のご紹介

丸紅セーフネット株式会社

～養豚保険～
全国へご案内

会社概要

設立／昭和43(西暦1968)年3月1日
資本金／3億円
代表者／代表取締役社長 大川 達哉
所在地／〒102-0084 東京都千代田区二番町3
麹町スクエア3F
事業内容／金融・保険サービス
TEL／03-5210-1825
FAX／03-5210-1600
メール／k-abe@m-inc.co.jp
URL／<http://www.m-inc.co.jp/index.html>

保険代理店の丸紅セーフネット(株)より、「養豚保険」をご案内させていただきます。一般的な火災保険では対象外となってしまうことも多い、飼育中の豚を対象とした保険で、幅広いリスクに対応した商品となっております。金融商品のため、詳細はここではご案内できませんが、今後全国の支部セミナー7箇所を回らせて頂き、皆様に直接ご案内させていただきますと思います。

弊社は元々総合商社の丸紅(株)グループの保険代理店として、損害保険会社25社と生命保険会社21社の中から最適な保険を探し出すことを生業としてまいりました。1社1社へ地道に最適な保険を探し出すことを続けてきた結果、現在では丸紅グループ外のお客様の比率が50%を超え、約3,000社のお客様とお取引を頂いております。

養豚保険をご案内させて頂くにあたり、松村理事長から「組合員の方々に、分かりやすくして基準となるような保険を提案してあげて欲しい」とおっしゃって頂き、分かりやすさについてもこだわり、お伺いする内容も8項目のみとなっております。

残念ながら伝染病は対象外となっておりますが、今後の大災害に備え、是非一度無料のお見積りだけでも取ってみて頂ければ幸いです。



養豚保険のチラシイメージ

ノーバス・インターナショナル社

～ソリューション サービス
サステナビリティ～

会社概要

設立／1991年7月
株主／米国三井物産株式会社、日本曹達株式会社
日本支店代表者：岸谷 秀樹
住所／東京都中央区日本橋人形町1-7-9 伊勢兼ビル7階
事業内容／飼料添加物の製造販売
TEL／03-6661-2911
FAX／03-6661-2850

弊社は、1991年にモンサント社のメチオニン水酸化体アナログ事業を継承して設立され、世界100か国以上に拠点を置く飼料添加物メーカーです。基幹商品であるアリメット®(メチオニン水酸化体)の他、数多くの飼料添加物を取り揃えております。アミプラス®は、日本におけるペプチドミネラルのパイオニアとして広く知られた製品であります。そして、昨年、有機ミネラルとしておおよそ30年ぶりに新たに登録されたミントレックス®亜鉛(メチオニン水酸化体亜鉛)を市場に紹介させて頂きました。現在は、ミントレックス®銅及びミントレックス®マンガンの申請手続きを進めている最中です。その他に、飼料中のたんぱく質消化率改善を目的としたサイベンザ(たんぱく分解酵素)、有機セレンの供給源としてのゾリエンSeYなど数多くの飼料添加物を飼料メーカー及びプレミックスメーカー各社でご採用頂いております。また、ハーブ類の抽出エキスネクストエンハンス®及びカビ毒吸着を目的としたソリス®等の機能素材も取り揃えております。ノーバスは今後も日本の養豚産業の発展に、飼料添加物の分野から尽力させていただきます。



アリメット
(メチオニン水酸化体、液体)



ミントレックス

ちくかんリースを活用しよう！

～新たに「畜産環境対策リース」が加わり、メニューが更に充実～

一般財団法人畜産環境整備機構

当機構は、昭和51年から40年余にわたり、畜産農業者の皆様を始め、農畜産業関係団体・会社等に畜産経営や食肉流通及び生乳・牛乳流通の環境整備のために必要な施設・機械・装置の貸付けを行って参りました。こうした長年の取組の経験とノウハウを生かし、今年度も養豚経営者の皆様をサポートして参ります。

令和元年度は、当機構が事業主体として運営する①畜産高度化支援リース事業のメニューに新たなリース事業が加わります。従前からの基幹リース事業である経営リース、食肉リース及び生乳リースに加えて、13億円の貸付枠で「畜産環境対策リース」を実施すべく準備を進めているところです。

この新リース事業は、畜産排水に対する暫定排水基準の見直し、強化への対応や臭気処理に必要な施設・機械・装置だけでなく、近年発生が続いている家畜・家きんの病気等への備えとして、車両消毒槽や畜舎等の消毒に必要な施設、防鳥ネット等を貸し付けます。

また、国（農林水産省、農畜産業振興機構）が実施する事業にリース会社として参画する②畜産クラスターリースや③畜産ICTリース（旧楽酪リース）、④楽酪GOリース、⑤簡易牛舎等リースなども実施しており、大別して5つのタイプのリース事業を実施しております（表1参照）。

今回は、養豚経営を行う皆様に、「畜産環境対策リース」を中心にご案内します。

まず、当機構の行うリース事業に共通する特徴は、①頭金の準備が不要であること、②貸付対象と認められる施設・機械・装置であれば、機種の設定は自由であること（お客様がご自身の経営規模や機械等の使い方、大きさなどを考慮して、お好きな機械やメーカーを選択できます。）、③貸付期間は法定耐用年数を基本としていますが、当機構の定める範囲内で延長や短縮ができること、④リース料の支払い方

法は、年1回払と年4回払の選択が可能であること、⑤貸付期間終了後、リース物件は借受者への譲渡が前提であること、⑥借受者は履行保証保険及び損害保険への加入が義務付けられていることなどです。

今年度から新たに取り組む「畜産環境対策リース」の事業目的・背景と主な貸付対象施設・機械等は、次のようになっています。（リース対象品目は検討中）

(1) 畜産排水に対する硝酸性窒素等の暫定排水基準の順守が求められていること：畜産経営から排出される汚水には、家畜排せつ物、畜舎洗浄水、パーラー排水などがありますが、これらには窒素やリンなどが多く含まれます。そのため、水質汚濁防止法により、一定規模以上の畜産事業場から排出される汚水については、所定の水質を満たす処理が義務付けられています。（硝酸性窒素等の暫定排水基準は、600mg/Lから本年7月より500mg/Lに引き下げ）こうした環境規制の強化に対応するための手段として、貯留槽、浄化槽など畜産排水を浄化処理するための施設をリースでご活用いただけます。

(2) 悪臭防止法に基づく臭気指数規制の導入市町村の増加など、畜産臭気への対応が求められていること：近年、地方自治体では、物質濃度規制に代えて複合臭等に対応が可能な官能検査による臭気指数規制を導入する市町村が増加傾向にあると言われて

表1 令和元年度 LEIOのちくかんリース事業

畜産高度化支援リース事業を中心に、合計5タイプのリース事業を実施します		
○ 畜産高度化推進リース事業 （独）農畜産業振興機構（ALIC）の補助事業		
① 畜産高度化支援リース事業 【貸付枠：28億円】		
畜産環境対策リース事業（新規） 【貸付枠：13億円】	経営リース	食肉リース 生乳リース 【貸付枠：15億円】
○ 畜産高度化支援補完リース事業		
②畜産クラスターリース (国) 【畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター事業）】	③畜産ICTリース (国) (旧楽酪リース) 【畜産経営体生産性向上対策事業（畜産ICT事業）】	⑤簡易牛舎等リース (ALIC) 【肉用牛経営安定対策補完事業のうち簡易牛舎等の整備（リース）】
④楽酪GOリース (ALIC) 【酪農労働者省力化推進施設等緊急整備対策事業（楽酪GO事業）】		
・ 国またはALICの事業にリース会社として参加 ・ 事業実施主体は、②～④が（公社）中央畜産会、⑤が畜産関係団体		
②～⑤について、LEIOは市金融機関からリース物件購入費を借入れて実施します。		

います。こうした環境規制に対応するため、換気装置、脱臭装置をはじめ、固液分離機、汚水攪拌機、浄化槽など畜舎等から発生する臭気を脱臭処理するための施設をリースします。

(3) 家畜の伝染性疾患の発生を予防する飼養衛生管理基準の遵守を徹底するよう求められていること：死亡家畜による病原体伝播防止に必要な死亡家畜保管用冷凍・冷蔵庫などの施設、衛生管理区域に立ち入る車両の消毒や衛生管理区域内にある畜舎等の消毒に必要な車両消毒槽や噴霧機、洗浄機などをリースします。また、野生動物等からの病原体の侵入防止に必要な防鳥ネット、防獣柵等もリース対象品目に含まれます。

緊急性の高い行政目的に沿った「畜産環境対策リース」ですが、基本的なリースの仕組み・手続きは①畜産高度化支援リース事業の中の経営リースなどと同じです(表2参照)。ただし、経営リースなどとの大きな違いが一つあります。本リース事業を利用される借受者が負担する保証保険料相当額と損害保険料相当額については、農畜産業振興機構の補助金が当機構に交付されるため、借受者の実質的な負担は0(ゼロ)になります。保証保険料に対する補助

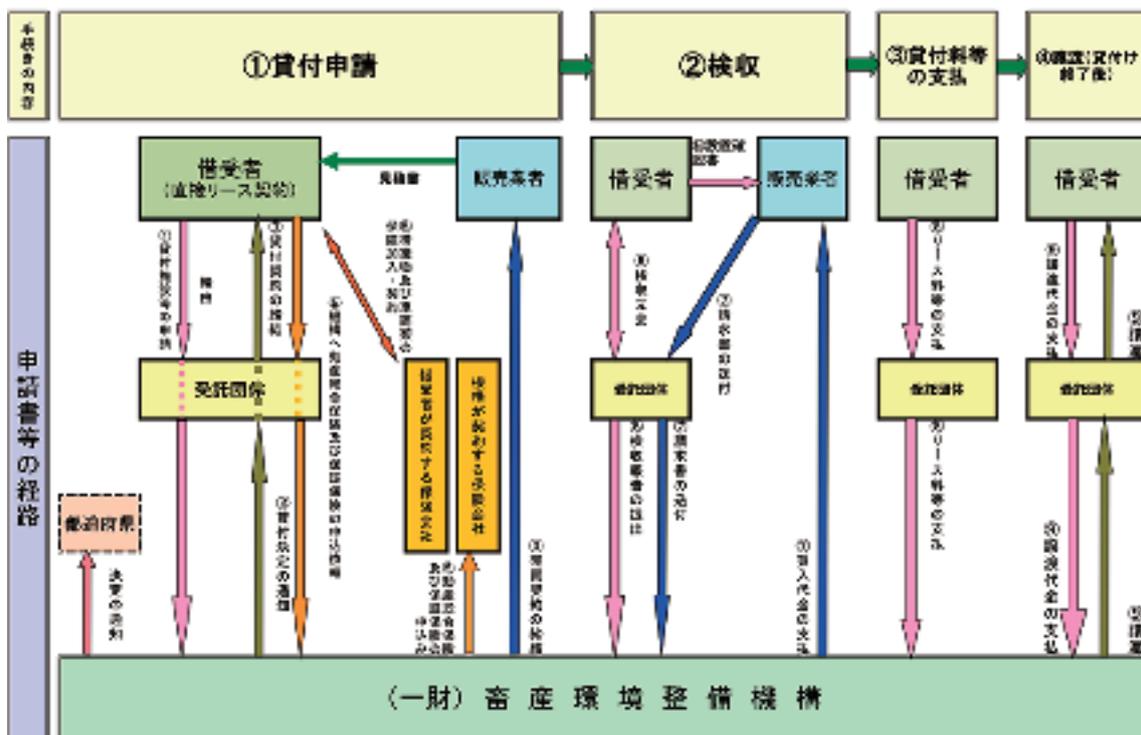
金の代理受領を畜産環境整備機構に委任するなどの事務処理が必要となりますが、他の経営リースなどに比べて借受者の負担が軽減されるリース事業になっています。

当機構の行うリース事業については、日本養豚事業協同組合または当機構に直接お問い合わせ下さい。

なお、当機構ではリース事業以外にも、福島県に畜産環境技術研究所があり、一般の畜産農業者の方々向けにも堆肥の分析を実施しております。一般分析や微量分析などの用途に併せた検査が可能となっておりますので、堆肥の利用促進にご活用いただければ幸いです。

- (一財)畜産環境整備機構ホームページ：
<http://www.leio.or.jp>
- リースの申込・問合せ：(担当：雨宮、長谷川)
Tel.03-3459-6300(代表)、03-3459-6348、
Fax.03-3459-6315
- 堆肥分析の申込・問合せ：
(畜産環境技術研究所)
Tel.0248-25-7777、Fax.0248-25-7540

表2 リース事業の仕組み



JASVベンチマーキングセミナー 2018 開催

5月10日に東京都内に於いて「JASVベンチマーキングセミナー 2018」が開催されました。2018年1月～12月間のベンチマーキング解析結果を元に、下記部門の上位三者および各部門で成績が大きく改善された方を部門毎に「Jump Up賞」としてJASVが表彰し、豚事協から副賞として賞金を授与しました。

全受賞者20農場のうち18農場が豚事協の組合員で、全体の9割を占め、有限会社マルミファームが6年連続「母豚1頭当たり粗利益部門最優秀賞」を受賞しました。

各部門の最優秀賞は下記の通りです。おめでとうございます。(東野)

- ・母豚1頭当たり粗利益部門：有限会社マルミファーム（愛知県・組合員）
- ・母豚1頭当たり出荷枝肉重量部門：ファロスファーム株式会社北広島・西城・御調農場（広島県・組合員）
- ・母豚1頭当たり離乳子豚数部門：ファロスファーム株式会社北広島・西城・御調農場（広島県・組合員）
- ・農場枝肉FCR部門：有限会社石川養豚場（愛知県・組合員）
- ・離乳後事故率部門：江戸屋養豚場（神奈川県）

豚事協の年間行事

理事会

第1回	平成31年1月24日(木)	(東京)
第2回	平成31年2月22日(金)	(東京)
第3回	平成31年4月19日(金)	(東京)
第4回	令和元年7月19日(金)	(東京)
第5回	令和元年10月18日(金)	(東京)

支部会

中部支部	令和元年6月14日(金)	(名古屋)
関東支部	令和元年7月5日(金)	(東京)
北海道支部	令和元年7月26日(金)	(札幌)
東北支部	令和元年8月30日(金)	(仙台)
中四国支部	令和元年9月13日(金)	(松山)
九州支部	令和元年10月11日(金)	(熊本)
沖縄支部	令和元年11月15日(金)	(那覇)

女性部

第12回女性部セミナー …… 令和元年6月24日(月)～25日(火)

その他

海外視察研修 …… 令和元年9月7日(土)～15日(日)(オランダ・フランス)

編集後記

受発注を担当していた久保です。この度6月末で退社する事となりました。2014年11月より5年間、大変お世話になりました。

養豚(畜産)の世界を全く知らないまま豚事協に入社し、最初は試行錯誤しましたが、5年かかってようやく慣れてきた所でした。役員の皆様にも大変気さくに接していただき、事務局メンバーとも楽しく仕事をし、賛助会員、組合員の方とも顔見知りとなってきた所だったので、職を離れる事とても残念に思っています。豚事協に入社していなかったら、一生知る事のできない事をいろいろ体験させて頂きました。仕事で恩返しを…と書いていましたが、得る事の方が多すぎたので、結局恩返しもままならず退社となってしまい、何とも言えない気持ちです。今後は後任の小野寺にお任せして、私は豚事協のフェイスブックページを覗きつつ、日々過ごそうかなと思っております。

また、職は離れますが、何らかの形で豚事協のお手伝いができる事がありましたら、喜んでさせていただきますので、またその際に皆様にお会いできたら良いなと思っています。

どうもありがとうございました。(久)

※青字は令和元年7月1日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性もありますこと、ご了承下さい。